

2025

7.16 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_5bJKpuI_TP-QXxVBOo29eA

【技術支援】九州大学 Q-AOS

データ正義： ビジネス中心から人間中心のアプローチへ



Key Words

情報法

個人データ

AI

所有権

GDPR

フェニック マーク 教授

法学研究院 国際関係法学部門

フェニック マークは、イギリスのリーズで生まれました。現在は九州大学大学院法学研究院において、国際ビジネス法の教授を務めています。彼の主な研究分野は、デジタル時代におけるビジネス規制および法と社会理論です。著書・編著書は 20 冊以上、法学雑誌に掲載された論文は 50 本を超え、これまでに EU、OECD、世界銀行のための研究も行ってきました。ケンブリッジ大学法学部（クイーンズ・カレッジ）で修士号および博士号を取得しています。これまでに、ケンブリッジ大学、デューク大学、香港大学、上海財経大学、シンガポール国立大学、チュラロンコン大学、ティルブルフ大学で客員教授を務めた経験もあります。

個人データは現代経済の原動力です。私たちがオンラインでもオフラインでも何か行動するたびにデータが生まれ、それを企業が常に収集・活用しています。多くの場合、私たちが気づかないうちに、その情報は金に換えられています。そしてそのデータは、人々を分類し、操作し、排除するために使われています——十分な説明や同意なしに。

EU の GDPR やカリフォルニア州の CCPA と CPRA のようなプライバシー法も、期待されたほどの効果は出ていません。この講演では、人を中心に据えた新しいアプローチを提案します。個人が自分のデータを本当に「所有」し、どう使われるかを自分で決められるようにする考え方です。AI 技術もこのビジョンの実現に貢献できますが、それは企業の利益ではなく、人間の尊厳と自律性を最優先する強力なルールに支えられていることが前提です。